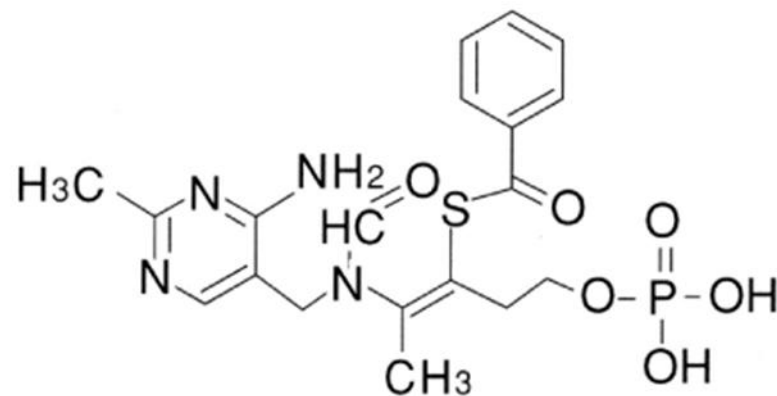


背景

ベンフォチアミンは脂溶性のビタミンB1誘導体で、生体内でのチアミンの利用率は水溶性ビタミンB1の約5倍と報告されている。糖尿病合併症（糖尿病性末梢神経障害、腎症、網膜症）の増悪を防ぐ効果および、抗炎症作用、抗酸化作用、神経保護作用といった多数の作用を持つと報告されている。しかし現在まで直接的な抗腫瘍作用についての報告はない。

今回、高齢で標準治療の適応のない急性骨髄性白血病患者にベンフォチアミン単剤を投与したところ一過性ではあるが著明な芽球減少が認められた。in vitro で芽球に対するベンフォチアミンの効果が確認できたため報告する。



一般名：ベンフォチアミン (Benfotiamine)

化学名：S-benzoylthiamine O-monophosphate